新時代に選ばれる都市　北九州

北九州市座談会

新型コロナウイルス感染症の猛威は地方都市にも甚大な影響を与えている。北九州市は5月に病院や高齢者施設で集団感染が相次ぎ発生し、他都市に先んじて第2波到来と注目された。だが市民が団結して抑え込みに成功、その後社会経済活動は安定した。それでも新型コロナは社会生活を大きく変えた。本座談会は対策に奔走した自治体、大学、またビジネスチャンスが拡大した企業それぞれのトップに参加していただき、取り組みや将来展望を語り合ってもらった。なお発言者以外はマスク着用、ソーシャルディスタンスに注意して行った。

北九州市　北橋市長

第2波克服し経済支援を強化　北橋氏

全学生にパソコン必携が奏功　尾家氏

快適な住空間ニーズが高まる　清田氏

―まずは北橋市長にお聞きします。全国でいち早く新型コロナの第2波を乗り越えましたがこれまでの取り組みと、また感染防止と経済の両立についてお聞かせ下さい。

北橋　パンデミック（世界的大流行）の脅威に市民がさらされた不安は大きかった。24時間体制で相談ダイヤルを設置し、国や県と連携して医療体制の提供に努めた。病院には最大100床のベッドを確保できるようにしたほか、マスクなどの資材が枯渇した時には備蓄品を配布するなどあらゆる手を講じた。病院の経営不安に対しては補正予算を組んで対処したほか、検査体制も強化した。感染者の濃厚接触者には他都市より早く全員がPCR検査を受けるよう指示した。高齢者施設への感染予防対策の徹底、今後懸念されるインフルエンザの予防接種支援対象の拡充など、できることは何でも行う。一方で経済対策は事業継続、雇用維持のための予備費も含め総額約670億円の経済支援に取り組む。

―大学も大きな影響を受けました。

尾家　対面授業が不可となったため5月7日からオンライン授業に切り替えたが、比較的スムーズに移行できた。2019年度から全学生にパソコンを必携化した制度が功を奏した。IT環境が十分でない学生にはWi-Fiルーターを無償で貸し出しており、アンケートではオンライン授業に不満足と答えた学生は1割未満だった。コミュニティーをつくりづらいという課題に対しては、新入生向けにさまざまなオンライン企画で学生生活や留学についての相談を受けたりと、満足度向上に努めている。経済支援では給付や授業料免除に加え、ワークスタディーやキャンパスでのアルバイト制度も活用している。企業の採用抑制で就職を懸念したが、産業界の尽力でほぼ前年度並みとなりそうで安堵している。21年3月には合同会社説明会をオンライン開催する予定だが申し込みは650社超と堅調だ。オンライン化についてはさまざまな意見があるが、特性を生かしつつ今後の教育に生かす。

―企業活動はいかがでしょうか。

清田　TOTOグループは世界中に約3万4000人の社員とその家族がおり、まずは安全確保を最優先に据えた。グローバルの感染状況は依然まだら模様で、やむなく一定期間操業を停止した国もある。供給責任があるため操業は継続せざるを得ないが、ソーシャルディスタンスの確保やマスク着用、シフトの組み替え、マイカー通勤などで感染防止を徹底している。今後も感染対策に注意を払いながら、クリエーティブに生き生きと働ける働き方を推進していく。コロナ禍における消費者の意識変化として衛生・清潔・快適ニーズが高まり、米国での温水洗浄便座「ウォシュレット」販売が伸びている。非接触ニーズも強まっており自動水栓の引き合いも増えた。在宅時間が増え、快適な住空間への関心が世界中で高まっている。創立から103年間、清潔や衛生、快適に取り組んできたが、世界中で消費者の意識変化が起きておりチャンスが広がりそうだと期待している。

九州工業大学　尾家学長

―フジコー、シャボン玉石けんも独自製品が評価されています。

萩尾　一般的には空気清浄機と呼ばれる製品を空気消臭除菌装置と名付け、10年ほど前から新規事業として立ち上げた。菌やウイルス、有機物を光触媒技術を使って二酸化炭素（CO_2）と水に分解する独自製品だ。鉄鋼関連が主力の当社だが、新型コロナ以前から鳥インフルエンザやシックハウス症候群、揮発性有機化合物（VOC）の軽減など、社会で必要とされる製品として研究開発を続けてきた。発売当初は除菌より消臭を訴えていたが、販売力が弱いため一般消費者に訴求できず、工場や事業所向けに採用されてきた。ところが新型コロナで注文が増え、OEM（相手先ブランド）供給先では注文が殺到している。海外からの注文も多く、部品を調達できない状況が数カ月続いた。まだまだ需要に供給が追いつかないが、投資を続けて多くの製品を供給できるよう頑張っている。

空気消臭除菌装置の注文急増　萩尾氏

ハンドソープの需要が5倍に　森田氏

森田　今年創業110周年を迎えたが、予定していた多くの催しを開けず悔しい思いをした。ただ手洗いがコロナ対策に非常に有効とされ、ハンドソープの売り上げが大きく伸びた。3月から8月までは例年の5倍の需要があった。衛生意識が高まり、アルコール消毒や手洗い回数が増えたことで手荒れに悩む人が増えており、手荒れしにくい当社製品のニーズが強まった。09年に北九州市立大学など複数の大学と立ち上げた「感染症対策研究センター」の研究で、ハンドソープ「バブルガード」に含有するオレイン酸カリウムが、新型コロナウイルスを99・99%以上不活化するという実証結果を得た。感染症対策には正しい手洗い方法も重要なので、16年に制作した「シャボンちゃんの手洗い歌」や「手洗いダンス」を通じて手洗いの大切さ、ハンドソープの良さを伝えていきたい。

出席者

北九州市長　北橋　健治氏
九州工業大学学長　尾家　祐二氏
TOTO社長　清田　徳明氏
フジコー社長　萩尾　寿昭氏
シャボン玉石けん社長　森田　隼人氏
〈司会〉
日刊工業新聞社西部支社長　石堂　隆史

新型コロナに負けるな！

―新型コロナは収束まで数年かかると言われています。ウィズ・アフターコロナをどうお考えですか。

尾家　社会活動に制約を受けた一方で、オンラインを利用すれば場所や時間の制約がないということが分かった。学びを止めないためにオンラインは非常に有効で、利点を生かした新たな取り組みが必要だ。不透明な状況だからこそ社会を変え、未来を創造する能力を備えた人材育成が重要になる。

森田　オンラインで全国から学生を募ることができるようになったほか、在宅勤務導入のきっかけにもなった。今まで年間1万5000人ほどの工場見学もZoomを活用した見学に切り替えたことで、小学生やお客さまとリアルタイムで質疑応答できるようになるなど、多くの人に当社や本市の魅力を今まで以上に伝えられるようになった。

萩尾　本市は過去に公害を克服して環境都市に生まれ変わった歴史がある。当社の光触媒技術をはじめ産学連携で開発してきた製品や技術も多い。アフターコロナに何が出てくるかわからないが、産学官でお互いの長所をうまく結びつけ、社会に役立つ製品を生み出していくことが大事だ。ただ中小企業は資金力がないので、国や自治体には研究を資金面で支援する仕組みも重要になる。

清田　消費者や顧客の価値観が変わり、商いのあり方も変わってきた。コロナ以前から、モノよりコトの価値観を重視するようになっていたが、デジタル技術は顧客の価値に広がりを与えた。当社もビジネスプロセスを変える目的でデジタル変革（DX）を進めるデジタルイノベーション推進本部を立ち上げた。ただ価値を広げる取り組みは1社でできる時代ではない。産学官が連携し、業界の垣根を越えて新たな価値を提供していく。

TOTO　清田社長

デジタルで顧客の価値広げる　清田氏

産学官で社会に役立つ製品を　萩尾氏

街も企業も情報発信力が大切　森田氏

―新型コロナは東京一極集中の課題を浮き彫りにしました。北九州市は企業誘致や移住促進に積極的です。

北橋　デジタル化、オンライン化の進展で新しいビジネスチャンスが生まれており、この波に乗って成長する企業もある。感染リスクの恐れやテレワークの利便性に触れることで、地方の生活に魅力を感じる若い人も出始めている。東京一極集中から脱却するチャンスの今、街の魅力を発信して、他都市との競争に勝ち抜くことも自治体の重要なミッションだ。この機を逃さぬようオフィスリノベーションや人材マッチング支援、DX推進支援など、地場企業の経営力向上や若者の定着の取り組みを強化する。生産性向上については、内閣府のロボットテクノロジーを活用した地方大学・地域産業創生事業を通じて九州工業大学、安川電機らと連携した産業用ロボットの研究開発を進めるほか、ビジネスを通じた国連の持続可能な開発目標（SDGs）推進なども引き続き強化する。悲願である北九州空港の滑走路延伸や洋上風力発電関連産業の拠点化推進事業などの取り組みにも挑戦していく。

フジコー　萩尾社長

―地域のポテンシャルは高いですね。

尾家　環境とロボットは本学の重要テーマでもあるので、連携して取り組めるのは喜ばしい。ロボットをはじめとした力のある企業と連携することで、学生は本市でしか体験できないことを学べる。またそうすることで大学の価値も上がる。企業の意識が変わり、街の価値も高まるような取り組みを産官学連携で進めたい。

ロボ・DX・SDGsにも挑戦　北橋氏

未来を創造する人材育成重要　尾家氏

―企業側の意見は。

萩尾　本市のような恵まれた環境で経営者が何をすべきか考えると、地域を盛り上げるためにしっかり事業を拡大し、雇用と人口増に貢献するという思いに行き着く。空気消臭除菌装置の売上高は19年度1億5000万円だったが、20年度には20億円を見込んでいる。コロナという想定外の出来事の結果ではあるが、世の中の急激な変化を体感した。中小企業のためいまだ生産体制が十分でなく、技術者も少ない。中途採用を進めているが、優秀な人材を確保するには本市が良い街であり続ける必要があるし、そのために当社も貢献できるよう頑張りたい。

シャボン玉石けん　森田社長

清田　産業が集い、雇用が生まれ、定住者を含めた人口が増えることで都市は活性化する。創業支援や企業誘致は大事だ。私は約4年間北九州商工会議所の副会頭を務め、本市の良いところはたくさんあるとあらためて感じた。必要なのは情報発信力であり、外部から見て魅力的に映る仕掛け作りが重要だ。

森田　企業だけでなく若い人にこの街に来てもらうことが一番だろう。大学に入学しても多くは就職時に市外へ出てしまう。今以上に地元企業が魅力ある事業内容や業績、働きやすさを打ち出すことで街がより良くなる。そのためには見せ方も大事だ。今はウェブを使えば距離はなくなり、見せ方も工夫を凝らせる。本市はモノづくりは得意でも情報発信が苦手なので今後の取り組みに期待したい。当社も魅力ある企業として学生だけでなく、U・Iターン希望者にも情報発信して街を活気づけたい。

―多くの建設的な意見が出されました。北橋市長に総括をお願いします。

北橋　新型コロナ対応で社会経済活動をこれからどう活性化させるのかが、国内外で大きなテーマになっている。逆風ではあるが自社の技術や商品を展開する皆さんのお話を伺って今日は心強く感じたし、あらためてサポートする必要性を感じた。地域社会における力の源泉は産学官のチームワークにある。これからの地方創生は口先だけでは進まない。産学官が本気になって、一つの目標にまっしぐらに歩むことが地方創生の決め手になる。本市は内閣府から全国で唯一のロボット開発拠点に選ばれたが、地域の中小企業がロボットやAI（人工知能）、新技術を導入しやすい環境をつくっていくことで地域の生産性を上げていく。大学、産業界と力を合わせてこの難局を克服し、新たなチャンスを見つけて伸ばしていきたい。

―ありがとうございました。

新型コロナ対策と経済両立のあり方、市の魅力などを意見交換した